

## 国大化学会を立ち上げて

国大化学会前会長 樋口 修一郎（昭和35年2部応化卒）

### 〈一言で申せば〉

2年前の4月1日に、従前の化学系の3つの同窓会が会員数約7千人の〈国大化学会〉として統合されましたが、その初代会長を務めさせて頂いた立場としての実感は、

- 統合を実現できて良かった。三位一体の言葉どおりだ。

という想いに尽きるものであります。さらに、2009年度からの米屋会長以下の新役員体制への引継ぎがスムーズにリレーできる運びでありますことも、とても喜ばしいことであります。

### 〈背景に押されたことも〉

統合して良かったとされるには、我々が置かれている環境・背景が強く〈押した〉ことも否めないのであります。幾つかを挙げてみますと、

- 近年、大学当局が大学と同窓会・卒業生との連携強化を図る観点から、同窓会側は全学同窓会連合を結成しての対応を推進して参り、その存在が強くなってきております。この場でも工学系に十余の同窓会が現存することによる、教育系及び経済・経営系が各1つであるのに比しての問題点が顕在化する機会が増加したのです。
- 今年で4回目を迎える〈ホームカミングデー〉の実行委員会の組織等の場でも同様で、統合しておいて良かったと思える次第です。
- そもそも、80余年前に横浜高等工業学校が設立された時には3学科でのスタートでありました。それは、応用化学と電気化学と機械の3学科であったのであります。従って、工学部の原点の大黒柱であった応化と電化が一緒になることはDNA的に見ても正解と言えるでしょう。換言すれば、収まる場所に収まった、とも申せます。
- 国大化学会が範を示したこともあり、工学部のエンジニアリング系の3同窓会が〈横浜3工会〉として統合・発足しましたことは、パイオニアとして喜ばしいことであります。



### 〈良いとこ取り〉

国大化学会がスタートして2年が経過しましたが、初期の立ち上げ期としましては、何と申しまして、

- 第一に目指すのは、スムーズな立ち上げ・移行であります。これが本当に旨く行くと評価できますのも、役員を初めとする会員の皆様がたのご協力・ご尽力の賜物であると、厚く御礼を申し上げる次第であります。

その背景の一つとしまして、

- 先ずは、3つの同窓会の〈良いとこ取り〉を実践することとしたことが、成功の原点の一つではないでしょうか。この良いとこ取りは、判り易く・実践がし易く・効果も見え易いということ、難しくないことが旨くいった秘訣ではないか、と思っております。
- その一例は、会誌についての〈良いとこ取り〉であります。スタイル・発行回数・コスト等が、良いとこ取りによって、とても良い会誌となってデビューしました。会員の皆様に直接手に取って頂けるものでありますので、成果が理解され・浸透できたと思えます。

### 〈革新的・率先的实践〉

統合というプロセスを踏んで新体制に移行するときに、この機会に同時に幾つかの革新・改革的なこ

とを実行に移したことも、タイムリーであったことも含めて評価されることであります。

○組織的な面では、

- 国大卒業生ではない先生方にも正会員になって頂き、副会長や執行役員にも就いて頂いた。

- 学生会員からも役員を出して頂いた。

等全学的にも、先進的と評されております。

○制度としては、〈国大化学会教育研究支援基金〉の制定・発足が意義大なるものであります。さらに、支援対象等事業を拡大していくことが求められております。

〈次への…〉

国大化学会は立ち上がったとは言え、充実・強化は今後の課題とされることが多い現実にあります。次の体制にお願いする当面の課題は多々ありましようが、私がやり残したと言える範疇のものを挙げてみますと、

- クラス幹事がらみの制度

- 国大化学会メールマガジンの創設

- 会費納入率の改善

- 教育研究支援基金への自動組み入れを含んだ寄付制度の創設

等があります。更なる発展の中での取り組みを望む次第であります。

## 会員の皆様へ（会誌原稿募集）

国大化学会では、国大化学会会誌に皆様からの自由な投稿、クラス会便り等を掲載し、内容豊かなものにできればと考えております。原稿をお寄せ頂ければ幸いです。

原稿分量：会誌 1 ページ（1200～1500 字＋顔写真等）程度、

クラス会便りは半ページ（約 600 字＋写真）程度。

送 付 先：国大化学会 会誌編集事務担当 牧野 makino@ynu.ac.jp

会誌の発行は春・秋の年 2 回としておりますが、皆様からの原稿で構成される「会員のページ」は今後、秋の号に主に掲載したいと考えております。原稿締切は概ね発行 2 ヶ月前とさせて頂いておりますので、次号（秋）の締切は 8 月末となります。紙面の関係上、次号・次々号への掲載となる場合もございます。タイムリーな掲載をご希望の方はその旨明記下さい。

原稿をお送り頂いてから 2 週間を過ぎても「原稿を受領しました」との返信がない場合は、メールを受信できていない可能性がありますので、お手数ですが再度お送り下さい。

皆様からの原稿をお待ちしております。

会誌・名簿グループ役員一同